

板谷沢右俣

シブサビとカミヤ和
一九八五年八月三一日

板谷沢左俣の遡行を終え、いったん二俣まで戻る。時間を見たら、まだ余裕があるので、右俣の調査に移る。

右俣に入って一分と進まないうちにナメ滝に出くわした。左俣が花崗岩であったのに、こちらは凝灰岩である。滝は大きなものはないが、小滝がいくつも出てくる。

一条の筋となって落ちる三段の滝を通過する。その後も二ヶ前後の滝が続く、沢水のきれいな源頭部まであきない遡行が楽しめる。源頭部は、左俣と同じく、稜線まで一気に突き上げていた。

今日は、小さいが多くの滝の出現

大沢

一九八三年一〇月二十九日

朝方天候が一時良くなったので、軽い沢登りを楽しもうと茂庭に向かっていたら、途中から小雨が降ってきた。引き返す気にもならず、雨具をつけて大沢をめざす。

板谷沢林道入口に車を止めて、大沢出合へと歩く。一〇分程で出合着。右岸にだいふ荒廃の進んでいる林道があるので、しばらくはそれをたど

により、予想以上に楽しい遡行だった。満足して帰路につく。

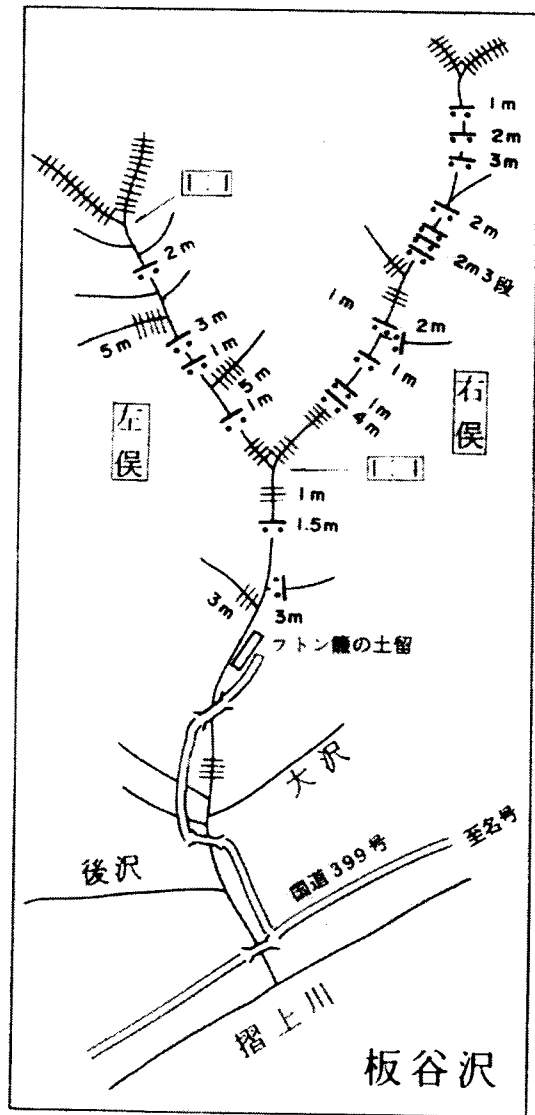
(記・二)

「タイム」 二俣(一五:二五)↓右俣
終了(一五:五〇)

る。沢の両岸にはスギやアカマツが植林されている。

林道終点から沢に入る。すぐにナメも終わり、ヤブコギの沢登りとなる。湿地の中を沢が流れている所を過ぎると二俣となる。ここに七ヶ宿方面への道があった。

右俣に入る。所々ナメが出てくるが、水の流れはもうチョロチョロで

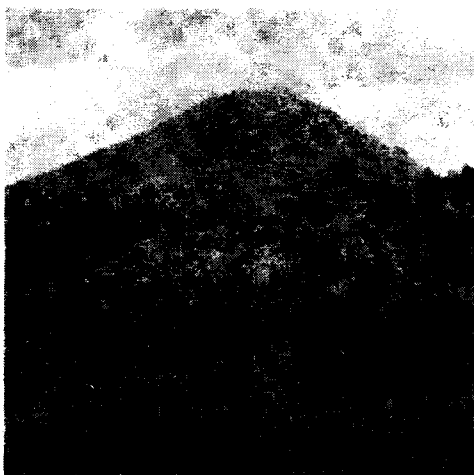


板谷沢左俣

I.
一九八五年八月三一日

板谷沢林道起点に車をデポし、しばらくは林道を歩いて、大沢出合から遡行を開始する。しばらくは林道との並行で河原歩き。やがて林道も終点となり、フトン籠による土留と

コルゲートパイプの排水管がある。この箇所、右岸、左岸より滝状となつて小沢が合流している。先に進むと二俣となる。水量はほぼ同量。地図に水線の引かれた左俣



五郎山

に入る。適当に小滝が出てきて、変化に富んでくる。
源頭部に来ると、倒木が沢を覆って歩きにくい。倒木の下は花崗岩のナメとなっており、稜線まで一気に突き上げているのを確認して遡行終了とし、戻ることにする。

(記：(一) (二))

「タイム」 林道起点(一四:〇〇)↓
大沢出合↓二俣(一四:四五)↓
左俣終了(一五:一〇)